

## 蕪村の手紙 II

一通の蕪村の手紙には、一編の物語を読むような愉しさが 있습니다。俳諧・画業、そして家族や仲間への思い…。飾らぬ言葉で綴った手紙の数々を蕪村独特の温かみのある筆蹟とともに楽しむ展覧会です。

2019年開催の「蕪村の手紙」展の第2弾となる本展は、蕪村の生涯における様々なシーンを伝える56点の手紙を中心に、絵画や遺墨、さらに几董・月溪など蕪村をめぐる人々の作品を加えた約130点を展覧します。また、何度でも見たい画俳の名品はもちろん、蕪村の新たな一面を伝える資料も公開します。

筆づかいはそのままに、蕪村その人の息づかいを伝えます。ある時は大胆に、またある時は繊細な筆づかいに導かれながら、蕪村の紡ぎだす豊かな世界に訪ね入ってみませんか。

- ◆会期 2022年9月10日(土)～11月6日(日)
  - 前期：9月10日(土)～10月2日(日)
  - 後期：10月6日(木)～11月6日(日)
  - ※前期と後期で大幅な展示替えを行うため、10月3日～5日は展示を休止いたします。
  - お出かけの際はご注意ください。
- ◆休館日 月曜日(ただし9月19日・10月10日の祝日は開館、翌平日休館)
- ◆開館時間 午前10時～午後6時(ただし入館は午後5時30分まで)
- ◆入館料 一般800(700)円 大高生600(550)円 中小生450(350)円
  - ※( )内は20人以上の団体料金
  - ※兵庫県内の小中学生はココロンカード提示にて無料
  - ※伊丹市在住の高齢者割引有(平日60歳以上、土日祝65歳以上)
- ◆主催 市立伊丹ミュージアム [伊丹ミュージアム運営共同事業体/伊丹市]
- ◆主な出品作品(予定)

### 【蕪村】

- ・蕪村筆東瓦あて書簡 安永8年7月4日付(公益財団法人柿衛文庫蔵)
- ・几董・蕪村往復書簡 安永9年3月15日付(公益財団法人柿衛文庫蔵)
- ・蕪村筆佳棠あて書簡 天明元、2年12月4日付(公益財団法人柿衛文庫蔵)
- ・蕪村筆田福あて書簡 天明3年9月8日付  
(公益財団法人柿衛文庫蔵 岡田彰子コレクション)
- ・蕪村筆東坡列桃源図(個人蔵)
- ・蕪村「雪月花」句自画賛 牛若丸図(公益財団法人阪急文化財団 逸翁美術館蔵)
- ・蕪村筆「其零鏡開」自画賛(個人蔵)
- ・蕪村句稿断簡(公益財団法人柿衛文庫蔵 岡田彰子コレクション)

### 【周辺人物】

- ・月溪「いわしひく」句自画賛 敏馬浜図(公益財団法人柿衛文庫蔵)
- ・几董筆「明いそぐ」句画賛 月溪画竹の月図(公益財団法人柿衛文庫蔵)

など約130点

## ◆関連イベント

### ○記念講演会

#### 「手紙の中の蕪村」 聖徳大学名誉教授 中野沙恵 氏

日 時：2022年10月2日(日) 午後2時～3時30分

会 場：市立伊丹ミュージアム1階講座室

受講料：一般1,000円、大高生・友の会会員500円

定 員：100名(要申込・先着順)

申込み：お電話(072-772-5959)にてお申込みください。

### ○関連講座

#### ①「蕪村の俳画を楽しむ」 画家 戸田勝久 氏

日 時：2022年9月19日(月・祝) 午後2時～3時30分

会 場：市立伊丹ミュージアム1階講座室

受講料：一般1,500円、大高生・友の会会員1,000円

定 員：100名(要申込・先着順)

申込み：お電話(072-772-5959)にてお申込みください。

#### ②「董とぺんぺん草」 俳人協会常務理事 西村和子 氏

日 時：2022年10月15日(土) 午後2時～3時30分

会 場：市立伊丹ミュージアム1階講座室

受講料：一般1,500円、大高生・友の会会員1,000円

定 員：100名(要申込・先着順)

申込み：お電話(072-772-5959)にてお申込みください。

### ○観柿会スペシャル

#### 鼎談「蕪村を楽しむ一手紙と絵と俳句と」

日本絵手紙協会公認講師 内藤美穂 氏

関西大学名誉教授 藤田真一 氏

市立伊丹ミュージアム名誉館長・柿衛文庫理事長 坪内稔典

会 場：市立伊丹ミュージアム1階講座室

受講料：一般1,000円、大高生・友の会会員500円

定 員：100名(要申込・先着順)

申込み：お電話(072-772-5959)にてお申込みください。

展覧会や関連イベントの実施について、新型コロナウイルス感染拡大状況により開催を見合わせる場合がございます。最新情報は市立伊丹ミュージアムHP(<https://itami-im.jp/>)にてお知らせいたします。

#### 【展覧会に関するお問合せ先】

市立伊丹ミュージアム

〒664-0895 兵庫県伊丹市宮ノ前 2-5-20

直通：TEL 072-772-7447、FAX 072-781-9090

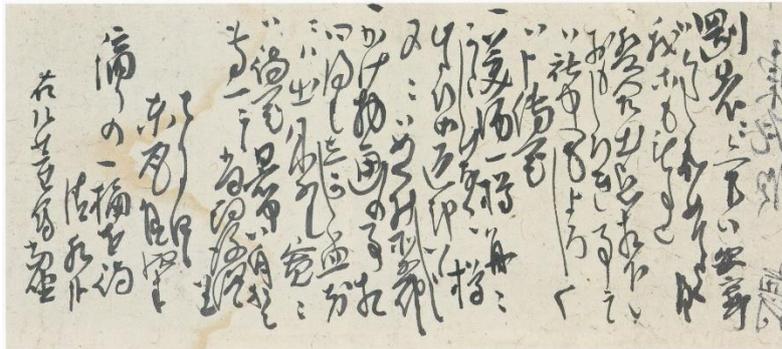
担当：市立伊丹ミュージアム・

公益財団法人柿衛文庫 学芸員 加藤有果子

Mail：[katou@kakimori.jp](mailto:katou@kakimori.jp)

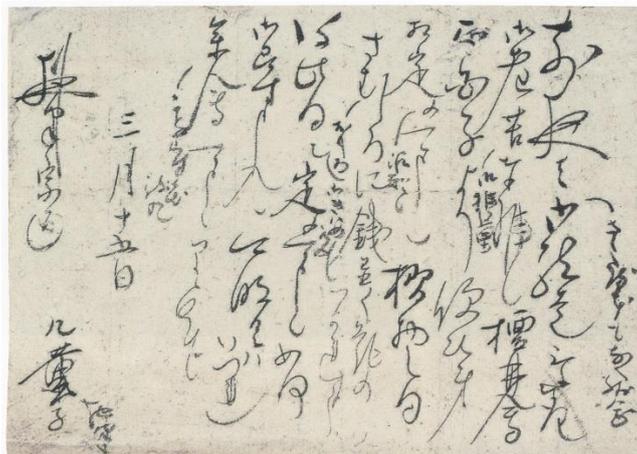
## ◆特別展「蕪村の手紙Ⅱ」主な出品作品紹介

【蕪村】



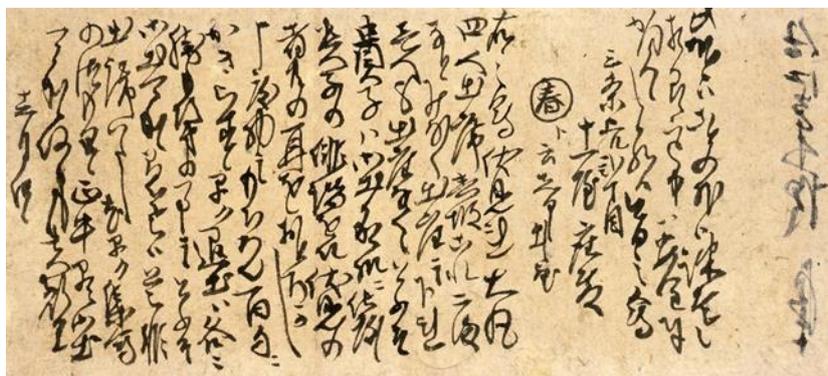
### ◎蕪村筆東瓦あて書簡 安永8年7月4日付（公益財団法人柿衛文庫蔵）

摂津国伊丹の醸造家・東瓦の家造酒「男山」は蕪村の口に合ったようで、空樽を返すのでまた送って欲しいと所望している。要件のみを簡潔に記す手紙が、かえって両者の気の置けない関係を想像させる。



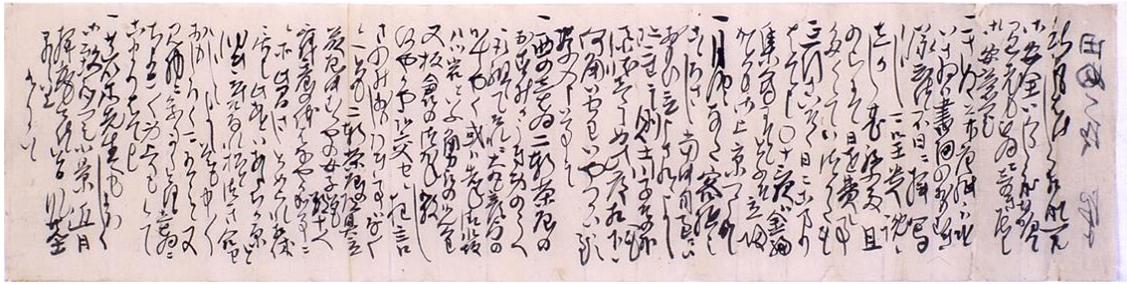
### ◎几董・蕪村往復書簡 安永9年3月15日付（公益財団法人柿衛文庫蔵）

几董が蕪村に宛てた手紙に、蕪村が直接返事を書き込み、返信する(行間の小文字が蕪村)。2人の会話が眼に浮かぶようで楽しい。



### ◎蕪村筆佳棠あて書簡 天明元、2年12月4日付（公益財団法人柿衛文庫蔵）

句会への誘い状。会場の目印を図で示す。



◎蕪村筆田福あて書簡 天明3年9月8日付(公益財団法人柿衛文庫蔵 岡田彰子コレクション)

京で呉服商を営む田福は、蕪村の画俳両面の活動を支えた一人。田福依頼の書画の承諾や句会へのお誘い、月溪の灘客遊に関わることなどを記す。



◎蕪村筆東坡列桃源図 (個人蔵)

蕪村には桃源郷を題材としたいくつかの画作が知られるが、本点の中でも繊細で诗情豊かな作品である。



◎蕪村「雪月花」句自画賛 牛若丸図 (公益財団法人阪急文化財団 逸翁美術館蔵)

小柄で柔和な牛若丸と、大柄で丸鼻・ドングリ眼の弁慶の組み合わせに飄逸とした味わいがある蕪村俳画の名品の一つ。

【周辺人物】



◎月溪「いとしひく」句自画賛 敏馬浜図（公益財団法人柿衛文庫蔵）

蕪村の弟子である月溪の自画賛。力いっぱい網を引く4人の男を淡彩で描く。天明3年9月、月溪は灘の土川を訪ねており、本点はその滞在中の作である。



◎几董筆「明いそぐ」句画賛 月溪画竹の月図（公益財団法人柿衛文庫蔵）

蕪村の弟子である几董・月溪の合作作品。若竹が風にそよぎ、明け方にかかる月の美しさを几董の句と月溪の画が余すところなく表現する。